

MACF 礼拝説教要旨

2022年10月30日

【内なる光は消えていないか？】

ルカによる福音書 11章

11:33 「ともし火をともし、それを穴蔵の中や、升の下に置く者はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。

11:34 あなたの体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい、濁っていれば、体も暗い。

11:35 だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい。

11:36 あなたの全身が明るく、少しも暗いところがないければ、ちょうど、ともし火がその輝きであなたを照らすときのように、全身は輝いている。」

11:37 イエスはこのように話しておられたとき、ファリサイ派の人から食事の招待を受けたので、その家に入って食事の席に着かれた。

11:38 ところがその人は、イエスが食事の前にまず身を清められなかったのを見て、不審に思った。

11:39 主は言われた。「実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。

11:40 愚かな者たち、外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。

11:41 ただ、器の中にある物を人に施せ。そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。

11:42 それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが。

11:43 あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好むからだ。

11:44 あなたたちは不幸だ。人目につかない墓のようなものである。その上を歩く人は気づかない。」

11:45 そこで、律法の専門家の一人が、「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱することになります」と言った。

11:46 イエスは言われた。「あなたたち律法の専門家も不幸だ。人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしないからだ。

11:47 あなたたちは不幸だ。自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ。

11:48 こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。

11:49 だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』

11:50 こうして、天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、今の時代の者たちが責任を問われることになる。

11:51 それは、アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。そうだ。言っておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。

11:52 あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」

11:53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者やファリサイ派の人々は激しい敵意を抱き、いろいろの問題でイエスに質問を浴びせ始め、

11:54 何か言葉じりをとらえようとねらっていた。

\*\*\*\*

ファリサイ派の人たちと律法学者たちに対する厳しい批判の言葉が出てきます。

イエス様がここまではっきり人を批判しているのは珍しいことです。

それだけ強く「方向転換」を求めていることがわかります。

ところでファリサイ派の人たち、また律法学者とは、どういう人たちだったのでしょうか。

イエスの時代、民衆の間で尊敬され、影響力をもっていたのがファリサイ派の人びとでした。彼らは、律法の掟を重視し、それを文字どおり忠実に守ろうとしました。掟の遵守を最優先し、律法を文字どおりに生きようとしていました。そのため、しばしば、相手の立場で考えると、暖かい配慮を忘れ、ただ法的に律法を守ることを重視していました。「臨機応変」という発想は皆無のようです。

ファリサイ派の人びとは、聖職者ではなく、信徒でした。彼らは職人、農民、商人などの中産階級をなしている人びとでした。しかし、彼らの中から、律法学者や最高法院の議員がでていました。ファリサイ派の人びとは、成文化された律法だけではなく、口承伝承の掟や、その時代の中でモーセの律法を解釈していました。

ファリサイ派という言葉は厳密には「ファリサイ派に属する人」を意味しているのですがファリサイという意味は「分離した者」、律法の本質を守らぬ人間と自らを分離するという意味合いがあると考えられています。

現在ではファリサイ派という名称は使われず、「[ラビ的ユダヤ教](#)」、あるいは「ユダヤ教正統派」と呼ばれています。

\* \*

律法学者とは、「律法を解釈する学者」を指しています。歴史的には、バビロン捕囚(BC587～538)以後、律法学者は重要な役割を持つようになりました。律法学者たちは、神がイスラエルの民に与えてくださった律法(トーラー)を研究し、自分でもそれを実行し、人びとに教える役目をもっていました。

また、律法を書き写すのも、律法学者の務めでした。そのため、律法学者のことを、「律法の筆記者」とも言うのです。彼らは、人びとから「ラビ」(先生)と呼ばれていましたが、彼ら自身が「ラビ」と呼ばれるまでには、何年間も有名な「ラビ」について、その教えや解釈について学ばなければなりませんでした。使徒パウロも、キリストに出会い、回心する前は、エルサレムで有名なラビ・ガマリエルのもとで学んだ、新進気鋭の律法学者でした。

いわば、超真面目で熱心な信徒集団と超頭脳明晰な宗教学者たちと考えることができるかもしれませんが。

本来、彼らは決して悪い人たちではありません。むしろ、真面目な人たちであり、優秀な人たちでした。

でも、イエス様の言葉を借りれば「神様からいただいた心の中の光を、自分たちのプライドとエゴによって消してしまった」人たちと言えるかもしれません。

彼らは教え、指導することに熱心でしたが、自らの生活の中に「神様の光を迎え入れる事を怠っている」という現実には気付いていなかったのです。

そこでイエス様の批判の言葉が投げかけられます。でも、これはその現実には気づいて悔い改め、方向転換を促すためでした。

\* 体裁だけを気にしながら生きている。心にあるのは強欲と悪意

11:39 主は言われた。「実に、あなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。

11:40 愚かな者たち、外側を造られた神は、内側もお造りになったではないか。

11:41 ただ、器の中にある物を人に施せ。そうすれば、あなたたちにはすべてのものが清くなる。

\* 規則としての 10 分の 1 の捧げ物は実行しているが、心に正義と愛が育っていない

11:42 それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが。

\* 人からの評価が最優先事項

11:43 あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好むからだ。

\* 頑張っているけれど、信仰者としての存在意義が感じられない

11:44 あなたたちは不幸だ。人目につかない墓のようなものである。その上を歩く人は気づかない。」

そして、律法学者への批判が続きます

11:45 そこで、律法の専門家の一人が、「先生、そんなことをおっしゃれば、わたしたちをも侮辱することになります」と言った。

\* 律法の要求を過度に背負わせ、助けようとも、救おうともしない。人には超厳しく、自分には超甘い

11:46 イエスは言われた。「あなたたち律法の専門家も不幸だ。人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分では指一本もその重荷に触れようとしなからだ。」

\* 自分たちが本来学ぶべき生き方を預言者たちから学ぼうとしないのに、評価しているように振る舞っている

11:47 あなたたちは不幸だ。自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ。

11:48 こうして、あなたたちは先祖の仕業の証人となり、それに賛成している。先祖は殺し、あなたたちは墓を建てているからである。

11:49 だから、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを遣わすが、人々はその中のある者を殺し、ある者を迫害する。』

11:50 こうして、天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、今の時代の者たちが責任を問われることになる。

11:51 それは、アベルの血から、祭壇と聖所の間で殺されたゼカルヤの血にまで及ぶ。そうだ。言っておくが、今の時代の者たちはその責任を問われる。

\* 自分たちが学んで知っているはずの神の知識、神の愛を封印し、お高いところにとまっている。本気で分かち合おうとしない。頑張らせるだけ、やらせながら、本当の救いの道を提示しない。

11:52 あなたたち律法の専門家は不幸だ。知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきたからだ。」

\*\*\*

イエス様が語られた批判の言葉は、そのまま、今を生きている私たちの心にも投げかけられているように思います。

それらの心は基本的に「イエス様の愛を許さず、イエス様の言葉と行動を疑い、否定し、自分たちの慣例や既得権益を守るためイエス様を殺してしまおうとさえ考えてしまう

残酷な心」です。人の祝福を喜べない心、人がイエス様に近づいて祝福を受ける事を妬む心、自分が評価されない事を何より許せないと思ひ込む心が、浮き彫りにされてきます。

自分を大きく見せたい気持ち、自分を特別扱いされたい気持ちが臭います。

イエス様がきたのは裁くためではなく、救うためです。ファリサイ派、律法学者と似たような心のある私たちが、それに気づいて、違う生き方に進めるように、イエス様はきて教え、行動し、愛を示してくださいました。光はあなたの心に燃えていたはず…。

神様から与えられている「内なる光」が消えていないかどうか、心静かに吟味してみましょう。

\* \* \*

MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/1ZhkaiMI84>